

東京音楽大学附属民族音楽研究所刊行物リポジトリ

Title	東京音楽大学附属民族音楽研究所2020年度公開講座No.1 パンフルートの贈り物～ルーマニアの風に乗せて～ に関する報告
Title in another language	FY2020IETCM Public Lecture Series#1 <i>A Gift of Panflute –On the Wind from Romania</i>
Author(s)	櫻岡史子 (SAKURAOKA Fumiko)
Citation	伝統と創造=Dento to Sozo, Vol. 11, p. 65-68
Date of issue	2022-03-29
ISSN & ISSN-L	Print edition: ISSN 2189-2350, Online edition: ISSN 2189-2482, ISSN-L 2189-2350
URL	https://tcm-minken.jp/publication/IE_B11202107.pdf

東京音楽大学附属民族音楽研究所 2020年度公開講座 No.1
パンフルートの贈り物 ～ルーマニアの風に乗せて～ に関する報告
FY2020IETCM Public Lecture Series#1 *A Gift of Panflute – On the Wind from Romania*

櫻岡史子 SAKURAOKA Fumiko

東京音楽大学附属民族音楽研究所主催の公開講座は毎年開催されているが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、Zoom 会議システムを使用しオンラインで開催された。オンラインでの公開講座に海外のパンフルート奏者を招聘しての開催は日本初となる。この講座の目的は、学生を始め地域の方々との交流を深め、文化交流の促進である。この報告書は、2020年に筆者が実際に体験したことを収録したものである。

キーワード: パンフルート Pan flute、パンフルート奏者 Pan flutist、
ルーマニア Romania、ゲオルゲ・ザンフィル Gheorghe Zamfir、

1. はじめに

東京音楽大学附属民族音楽研究所では、2019年より日本で初めて大学での社会人向けのパンフルート講座が開講され、2020年には、東京音楽大学附属民族音楽研究所社会人特別講座にパンフルート専攻が誕生した。2019年には日本ルーマニアパンフルート協会が設立され、2020年には成蹊大学にパンフルートグループ、2021年には埼玉県立上尾高校にパンフルート部が創設されるなど、国内でのパンフルート教育の場も増え、関心が高まってきている。

東京音楽大学附属民族音楽研究所主催の公開講座は毎年開催されているが、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、Zoom 会議システムを使用しオンラインで開催された。オンラインでの公開講座に海外のパンフルート奏者を招聘しての開催は日本初となる。この講座の目的は、学生を始め地域の方々との交流を深め、文化交流の促進である。

ルーマニア大使館の後援を受けて開催した公開講座では、ルーマニアの文化とパンフルートの歴史が紹介され、パンフルートの巨匠であるゲオルゲ・ザンフィルの一番弟子であるパンフルート奏者ラドゥ・ネキフォル Radu Nechifor をオンライン上に招聘した。ルーマニア人のヴァイオリン奏者のファザカス・チビ Fazacas Tiby、ピアニストのマリウス・トゥツァ Marius Tuta とともにルーマニア民謡や様々な文化的伝統的な音楽が演奏された。言語は英語、日本語の2ヶ国語が使われ、少なくとも55名が参加した。

3. ラドゥ・ネキフォル パンフルートコンサート

演奏：パンフルート Radu Nechifor ラドゥ・ネキフォル
 ヴァイオリン Fazacas Tiby ファザカス・チビ
 キーボード Marius Tuta マリウス・トゥツァ

通訳：小日向英俊

演奏曲：Hora staccato - ホラ・スタッカート グリゴラシュ・ディニク
 Balada - バラーダ チプリアン・ポルムベスク
 Ciocarlia - ひばり アンゲルシュ・ディニク
 ルーマニアの様々な地域の文化的、伝統的な歌



写真提供：
ラドゥ・ネキフォル

【内容】

ルーマニア出身のパンフルート奏者ラドゥ・ネキフォルは、パンフルートの巨匠ゲオルゲ・ザンフィルの一番弟子で後継者と言われる人物である。ブカレスト国立音楽大学の学士と修士を取得し卒業した。

2017年から現在まで、チスナディエ・カルチャーセンター Cisnadie House of Culture のゼネラルマネージャーを務め、2006年から現在まで欧州青年議会の議員を務めており、この期間、彼は2つの国際的なセッションを含む10以上のセッションに参加し、セッションの主催者、議長、会長または副会長を務め、国際青少年協会の副会長「Become」とともに、芸術分野で数多くのイベントやフェスティバルを開催している。2013年、2014年、2015年の「Simply the Best – The Panflute Story」の主催者であり、シンプリーザベスト–ザパンフルートストーリー、シビウ（2013、2014、2015）5つの音楽ジャンル（クラシック、ジャズ、ポップロック、フォークロア、クラビング）をまとめたコンサートのメインアーティストである。国際青年協会の副会長として、人道協会「アレクサンドラ・ナヌ」と共同でコンサートを開催。ケベックのバレーフィールド国際演劇祭で演劇グループ「になる」が演じる演劇ショー「Razboisa fie」(戦争)のために作曲したサウンドトラックを担当するなど幅広く活躍している。

演奏曲は、19世紀後半にルーマニアのパンフルート奏者アンゲルシュ・ディニクが作

曲した《ひばり Ciocarlia》である。ひばりの声を模倣した演奏や速いパッセージ、一つ一つの音を明瞭に響かせるためには、高い演奏技術が求められる。グリゴラシュ・ディニクが作曲した《ホラ・スタッカート Hora staccato》は、1906年のブカレスト音楽院で卒業式のために作曲し、式典で演奏された楽曲である。非常に優れた技術、そして、民族伝承に深く根ざした音色、音の優雅さ、そしてメッセージを伝えている作品だ。パンフルートの巨匠ゲオルゲ・ザンフィル作曲の《ルーマニアの風景 Pastel Romunia》も演奏された。ルーマニアには、今も深い森や溪谷など、手つかずの美しい大自然が広がっており、ヨーロッパ最後の秘境と言われている。ラドゥ・ネキフォルは編曲も手掛けており、この楽曲を「これがルーマニアだ」と紹介し演奏を披露した。



写真撮影：櫻岡史子
場所：ルーマニア シビウ市

The extension course provided by the Tokyo College of Music, Institute of Ethnomusicology, is held every year, but in 2020, it was held online using the Zoom conference system due to the influence of the new coronavirus infection. In Japan it was the first occasion for any overseas pan flute player to be invited to perform online. The purpose of this course is to deepen exchanges with local people including students and promote cultural exchanges. This report is a record of what the author actually experienced in 2020.

(本学付属民族音楽研究所講師 日本ルーマニアパンフルート協会会長 パンフルート)